

公益社団法人中央畜産会 会長賞



受賞

(ブランド名) あいだの米たまご
(酵素飼育米たまご、my米たまご)

農事組合法人
会田共同養鶏組合
(長野県)



【会社概要】

- ・名称：農事組合法人会田共同養鶏組合
(長野県松本市会田)
- ・飼養羽数：年間16万2000羽
- ・米ブランド開始：平成23年～
- ・ブランド名：「あいだの米たまご」
(「酵素飼育米たまご」、「my米たまご」)

【受賞者の米活用畜産物ブランド化の取組】

平成20年から協議会を設け消費者と一体となって飼料用米の利用を研究。現在は全ての鶏に飼料用米を給与しており、年間使用量は約2000トン。飼料米の給与率は20%～30%（玄米含む）で、栄養価の高い美味しい鶏卵を生産している。おもな販売先は生協、有機農産物等の宅配ユーザーなどで安定的な生産・販売を行っており、販売量、販売額ともに拡大している。

【高付加価値化の取組】

- ・全ての鶏に飼料用米（長野県、岐阜県、三重県産）を20～30%（玄米含む）使用した自社配合飼料を給与。
- ・農場HACCP認証を取得、衛生管理を徹底。
- ・生活クラブ生協と連携して「my米たまご」を、スーパーと連携して「酵素飼育米たまご」を販売。

生活クラブ生協の場合、Non-GMOの使用や抗生物質・抗菌剤の不使用、こうした情報の開示など飼料に関するだけでなく、採卵鶏の飼い方も両者で協議を行っており、実需者と連携したプライベートブランドとしての差別化を図っている。

- ・なお、「米」とはネーミングされていないが、「平飼たまご」も飼料用米を使用しており、平飼い飼育を30年前より研究。アニマルウェルフェア飼育を14鶏舎で実践しており、現在6万3000羽にまで成長。

【耕畜連携の取組】

- ・鶏舎で発生した鶏糞は学校給食で出た食物残さなどとともに市営の有機センターで堆肥化。堆肥を飼料用米生産者に無償で提供（10アール当たり450kg）し、循環型農業を実践している。

【あいだの米たまごの特徴】

- ・一般的なたまごと比べ、オレイン酸やビタミンE、DHAが豊富。
- ・お米を与えることにより黄身の色が白くなるのを調整するため、ファフィア酵母を使用。このため、抗酸化力のあるアスタキサンチン値もアップ。
- ・消費者からは、食味がさらっとして白身がしっかりとしており、シフォンケーキなどのお菓子に最適という評価を得ている。

